

# 呼びかけ語をめぐる諸問題の検討と 定義の提案

東出朋\*

(e-mail : tomohigashide@yahoo.co.jp)

## <目次>

- |                                      |                     |
|--------------------------------------|---------------------|
| 1. はじめに                              |                     |
| 2. 用語をめぐる                            |                     |
| 2.1. 「人称」と「代名詞」をめぐる                  | 3.2. 行為の観点からみる呼びかけ語 |
| 2.2. 「呼称」、「呼びかけ語」、「対称詞」をめぐる          | 3.3. 語種の観点からみる呼びかけ語 |
| 2.3. 対称詞をめぐる                         | 4. 発話の観点からみる呼びかけ語   |
| 3. 呼びかけ語をめぐる                         | 4.1. 発話にみられる呼びかけ語   |
| 3.1. 呼びかけに用いられる諸表現の品詞的、<br>構文構文的位置づけ | 4.2. 呼びかけ語の定義の提案    |
|                                      | 5. おわりに             |

キーワード：呼びかけ語 (vocative), 対称詞 (terms of second person), 代名詞 (pronoun), 人称(person), 用語 (terms)

## 1. はじめに

呼称や対称詞は様々な観点から研究されており、この対象に対する研究者の興味・関心は高い。たとえば、雑誌『日本語学』では、1990年に「呼称」、1998年に「人の呼び方」という特集が組まれている<sup>1)</sup>。インターネットで検索すれば、呼称や呼びかけ語、対称詞を扱った論文は枚挙に暇がない。また、呼びかけ語は素朴な問題としても我々の関心の的である。日向(1983)は新聞の投書欄に載せられた例を挙げている。警察官である投稿者は、通行中の女性に注意を促すため呼びかけようとしたが適当な語が見つからず、悩

\* 釜慶大学校 人文社会科学大学 日語日文学科、外国人講義招聘教授、日本語学。

1) 1990年『日本語学』9(9)、1998年『日本語学』17(9)、明治書院。

んだ挙句「カノジョー」と呼んで大失敗した、という話である。人をどのように呼ぶべきか、いかに言及するべきかという問題意識は、身近な疑問から研究対象まで幅広いといえる。

この問題をめぐる議論では、幾つかの異なる用語が用いられている。呼びかけ語は、基本的にはヒト名詞である。日本語のヒト名詞で一際興味深いのは、「わたし」「おれ」「あなた」「おまえ」など、多数のバリエーションを持つ「人称代名詞」である。「一/二/三人称」と「自/対/他称」、また、「呼称」「呼びかけ語」「対称詞」という、類似した対象を意味する用語も用いられている。対称詞に関しては「呼びかけ用法/言及用法」という語も用いられる。このような用語の乱立にともなって、「呼びかけ語」の明示的な定義は、管見の限り存在していない。

本稿の目的は、日本語の呼びかけ語をめぐりいくつかの問題点を整理したうえで、呼びかけ語の定義を提案することである。まず2節では、呼びかけ語の議論にみられる様々な用語を整理し、呼びかけ語と対称詞、対称名詞、対称人称詞の関連を明らかにする。次に3節では、過去の呼びかけ語の研究を品詞、構文、行為、語種の観点に分けて概観する。そして4節では、多様な呼びかけ語の現象を説明するためには発話の観点からの分析が必要であることを示し、呼びかけ語の定義を提案する。5節はまとめである。

## 2. 用語をめぐって

本節では、まず、「人称」と「代名詞」という用語を整理する。鈴木(1973)および田窪(1997)は、日本語の「わたし」「あなた」などの語が持つ文法的特徴を指摘しているが、その考え方が広く受け入れられているとはいえない。次に、「呼称」、「呼びかけ語」、「対称詞」という用語を説明する。この3つは全て聞き手を意味するが、厳密には若干の違いがある。最後に、「対称詞」の下位区分としての「対称名詞」および「対称人称詞」の2種類を紹介する。

### 2.1. 「人称」と「代名詞」をめぐって

「わたし」「あなた」「かれ」などの語は、一般に「人称代名詞」と呼ばれている。国語学では、これらの語は、いわゆるコソアドの代名詞の体系の内部に位置付けられて研究されてきた。代名詞体系では、話し手自身を指す語は「自称詞」、聞き手を表す語は

「対称詞」、第3者を指す語は「他称詞」と呼ばれてきた<sup>2)</sup>。

日本語の「わたし」「あなた」などの語について、鈴木(1973)は、「他の語彙から独立した、一つのまとまった語群を、形態論的にも機能の見地からも形作っていない以上、これだけを切離して扱う意味がなく、むしろ、親族名称、地位名称などと一括」(同上:134)することを主張した。つまり、親族名称や地位名称なども「わたし」「あなた」と同様に自称詞や対称詞として扱うべきであると考えた。なお、「人称代名詞」という語を使うことは否定していない。

田窪(1997)は、鈴木(1973)を踏まえて、「わたし」「あなた」などの語を他の名詞類と区別する文法的理由がない点について次のように説明している。それによると、人称代名詞は、性数格の一致のある言語においてその一致特性のみを担う文法範疇であり、原則的に語彙の出入りはなく、「閉じた語類」である。それに対し、日本語のこれらの語は文法的特性を持たず、必要があれば「ミー」「ユー」など外来語からでも流入される<sup>3)</sup>ことから、「開かれた語類」である。したがって、これらの語は文法範疇としては「代名詞」でなくあくまで「名詞」であると考え、「人称代名詞」と呼ぶことを退け「人称名詞」と名付けた<sup>4)</sup>。

しかし、「一/二/三人称」と「代名詞」という用語は、日本語研究において現在でも広く用いられている<sup>5)</sup>。日本語の「わたし」「あなた」類は文法範疇としての代名詞とは形態的、機能的、意味的、語彙的に大きく異なるのは明らかである(鈴木1973;田窪1997)。しかし、馴染みのある外国語の範疇で捉えたほうが理解されやすいのかもしれない。

「名詞」より「代名詞」のほうが名称として受け入れられやすいという現実があるのだろう。本稿は、鈴木(1973)および田窪(1997)にしたがい、「わたし」「あなた」「かれ」などの語について、「自称/対称/他称」という「人称」を示すために用いられる「名詞」であるとする。

2) 内間(1981)は、国語学の文法論者12名による代名詞に関する議論を詳細に整理・分類した。参照されたい。

3) このような語を実際に用いている人に対する意見が書かれている。

[https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q13191593358](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13191593358)(検索日:2019.02.15)

4) なお、永田(2015:4)は、印欧語と日本語の代名詞の機能の違いを指摘したうえで、「呼称詞」と「対称詞」という用語を提示している。「山本、お前どこに行くんだ」「先生、おはようございます。先生は今どこに行かれるのですか」という2文において、呼びかけに用いられる「山本」と「先生」は「呼称詞」で、呼びかけた後に用いられる「お前」「先生」は「対称詞」であるという。

5) 2000年以降に発行された、日本語の「人称代名詞」を扱った論文をciniiで検索すると、39件見つかった。

## 2.2. 「呼称」、「呼びかけ語」、「対称詞」をめぐって

「呼称」という語は日常で広く用いられている。これは、ヒトのみならず、モノやコトの「呼び方」「名前」の問題である。

- (1) 陛下の退位後の呼称<sup>6)</sup>(称号)は「上皇」とした。退位した天皇はかつて「太上(だいじょう)天皇」と呼ばれ、その略称として「上皇」が使われた。歴史的な経緯を踏まえつつ、現行憲法下で退位した天皇の新たな呼称と位置付け、略称ではなく正式呼称として上皇を用いる<sup>7)</sup>。
- (2) 山形市議会(渡辺元議長、定数33人)が30日閉会の6月定例会で、宮城県境の蔵王山の呼称を「ざおうさん」に改めるべきだとの国に対する意見書を可決した<sup>8)</sup>。
- (3) 昭和12年(1937)7月7日、中国北京郊外の盧溝橋での日中両軍の小衝突を発端として、7月末には日本軍が北京・天津地方を制圧。8月には、上海で海軍陸戦隊の大山勇夫中尉が射殺されたことを契機に、日本は上海地方への出兵を決定。9月2日には、「支那事変」と呼称すると発表し、日中は全面戦争状態に突入しました<sup>9)</sup>。

呼称のうち、特に親族呼称について、歴史的に人類学の分野で研究が盛んに行われてきた。日本語の親族呼称については、渡辺(1970)が家族構成と親族呼称の関係を調査し、そのなかで、「呼称」と「名称」の違いについて分かりやすく説明している。

親族呼称(kinship term of address)—ある個人が自分と特定の親族関係にある他の個人に呼びかける(to address)ときにだけ使用する言語形式をその親族に対する親族呼称という。親族呼称になり得るのは、その親族がもっている人名(愛称・あだ名を含む)と、その親族に対して割りあてられている親族名称の中の特定の形式だけである。(中略)

親族名称(kinship term of reference<sup>10)</sup>)—ある個人が自分と特定の親族関係にある他の個人をその特定の親族関係という観点から言及(to refer)するときに使用する言語形式(中略)を親族名称という。(中略)

6) 以後、下線は引用者による。

7) <http://www.saga-s.co.jp/news/national/10201/436757>(検索日:2019.02.03)

8) <https://mainichi.jp/articles/20170701/ddl/k06/010/081000c>(検索日:2019.02.03)

9) [http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s12\\_1937\\_02.html](http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s12_1937_02.html) (検索日:2019.02.03)

10) 原文はreferenc.

親族名称のうちある特定のものは、親族呼称にもなることができる。たとえば、親をさし示す親族名称のうち、チチ・ハハという親族名称は、親族呼称にはならない。しかし、オトサン・オカーサンという親族名称は、立派に親族呼称にもなることができる、というが如きである。  
(同上:146-147、下線引用者)

呼称は呼ぶときに用いられる語であり、名称は言及するときに用いられる語である。そして、名称のうちのある特定のものが呼称になるという点で、名称>呼称といえる。この2つの概念の区別は人類学の分野では当然であるのだが、概念的に重なる部分があるため混同されることも多い<sup>11)</sup>。

「呼びかけ語」<sup>12)</sup>という用語も存在する<sup>13)</sup>。渡辺(1970)のいう呼称と類似しているが、異なる点もある。「呼びかけ語」は、たとえば、少し離れている人にかかに呼びかけるか、また、話し相手をなんと呼ぶかの問題である。

(4) (お父さん/あんた/田中さん/運転手さん/係長/そこの後ろの席の方)、窓開けてもらえます?  
(作例)

(4) の呼びかけ語は聞き手を指しているため「対称詞」であり、それが呼びかけ語として用いられているという意味で、対称詞の呼びかけ用法<sup>14)</sup>といわれる。これらの語は、(5)に見られるように、文内で言及する用法としても用いられる<sup>15)</sup>。

11) <https://kotobank.jp/word/%E8%A6%AA%E6%97%8F%E5%90%8D%E7%A7%B0-82166>

(検索日：2019.02.02) また、鈴木(1967)にも同様の問題が指摘されている。

12) 「呼びかけ語」という項目は言語学辞典にない。しかし、類似した項目はある。たとえば、『現代言語学辞典』の「address呼びかけ」の項目は、「話し手が相手をどのように呼ぶかということ」(同上:10-11)と定義し、日本語の呼びかけの形式として「課長」「校長先生」などを挙げ、加えて「おい」「ねえ」という注意喚起専用の表現も含めている。また、『オックスフォード言語学辞典』の「呼びかけ形式forms of address」の項目は、「社会的地位が異なったり個人的関係が異なったりする聞き手に対し、話者が用いなければならないか、あるいは通例用いる独特の形式」(同上:366)と定義している。この2つは「話し手/聞き手」という人間関係と「呼ぶ」という機能に着目した定義であると言える。なお、「呼称」と「対称詞」という項目はない。

13) 国広(1990:4)は「『呼称』という名称は従来は用いられず、代わりに『呼びかけ(語)』が見られた」と述べている。しかし、国立国語研究所「日本語研究・日本語教育文献データベース」において、「呼称/日本語」「呼びかけ語/日本語」というキーワードで、1990年までに発行された研究を検索すると、それぞれ114件、0件ヒットする。また、ciniiで検索したところ、それぞれ11件、2件ヒットする。したがって、過去の日本語研究では「呼称」という用語が主に用いられてきたと言える。

14) 鈴木(1973)は呼格的用法(vocative use)と呼んだ。

15) 鈴木(1973)は代名詞的用法(pronominal use)と呼んだ。

(5) (昨日の電話の発信主が聞き手であったことを確認する場面)

昨日電話かけてくれたのは(お父さん/あんた/田中さん/運転手さん/係長/そこの後ろの席の方)だよな? (作例)

### 2.3. 対称詞をめぐる

人称に用いられる語は、その指示の仕方から「記述」と「直示」の2種類に分けることができる(田窪1997)。親族名称「お父さん」、固有名詞「田中さん」、職業名称「運転手さん」、地位名称「係長」などは、いわゆる普通名詞である。これらの語は、対象が備えている(と話し手が考える)何らかの性質や属性を記述している。また、「そこの後ろの席の方」という句も対象を説明している。これらの語(句)は、基本的には現実世界にいる対象を話し手なりに記述しており、特定の談話領域内においてその人物が話し手や聞き手として同定されるに過ぎない<sup>16)</sup>。それに対し、「わたし」「おれ」「あなた」「あんた」などの語は、特に対象の性質を記述しているわけではない。これらの語は話し手と聞き手という役割しか持たず、その指示対象はもっぱら直示的に理解される。

そこで本稿は、普通名詞による対称詞を、いわゆる通常の名詞が対称詞として使用されているという意味で「対称名詞」と呼ぶことにする。それに対して、「あんた」「おまえ」などの語を、いわゆる「人称」しか表さない語が対称詞として使用されているという意味で「対称人称詞」と呼ぶ。この議論を整理したものが表1で、表内の太字は呼びかけ語である。

<表1> 対称詞の呼びかけ用法と言及用法の種類と例

対称詞	対称名詞	呼びかけ用法	<b>お父さん</b> 、ちょっとごみ出してきてもらえる?
		言及用法	お父さんの仕事って大変なんだね。
対称詞	対称人称詞	呼びかけ用法	<b>あんた</b> 、ちょっとごみ出してきてもらえる?
		言及用法	あんたの仕事って大変なんだね。

対称詞として用いられる名詞には制約がある。鈴木(1973)は対称詞および自称詞選択

16) このような名詞を田窪(1997)は「定記述」の名詞と呼んだ。

の一般的原則を導いた。対称詞選択の原則のうち2点目として、「話し手は、分割線<sup>17)</sup>より上の人を普通は親族名称で呼ぶ。(中略) 下の者に親族名称で呼びかけることはできない」(同上:151)を挙げている。自分の祖父に対して「おじいさん」は使えるが、自分の弟や娘に対して「弟」「娘」という親族名称は使えない。

- (6) a. おじいさんのひげは長いね  
 b.\*おい弟  
 c.\*娘はどこに行くの? (同上:151)

しかし、鈴木(1973)は触れていないが、「弟」「娘」に対応する親族名称は「祖父」であり、この語は、「弟」「娘」同様、呼びかけ語にはなりえないという事実がある。この点について、金水(1986)は呼称の敬意性を指摘し、親族名称そのものは敬意を含まないため、呼称として用いるためには「(お)~さん」などの敬語の形態素が補われる必要があると補足している。

「息子」や「母」「父」という親族名称は、呼びかけであることを示す助詞「よ」がなければ呼びかけとして解釈されない。しかしその場合、(7)に見られるように、呼びかけ用法は可能でも言及用法としては用いられない。また、「よ」は歴史的に詩歌で用いられる助詞であるため、現代でも、(8)(9)に見られるように、詞や歌詞、聖書などの限られた分野で用いられ、特徴的な文体を帯びている。

- (7) 息子よ、これを息子にやろう。 (田窪1997:27)  
 (8) 淡くかなしきもののふる 紫陽花いろのものものふる道 母よ 私は知つてゐる この道  
 は遠く遠くはてしない道雪 (三好達治『乳母車』)  
 (9) 父よ 、彼らをお赦してください。 (竹田伸一『聖書によるキリスト教研究』)

また、(10)(11)のように、モノに対する呼びかけにも用いられる。つまり、呼びかけの「よ」で用いられる語彙には制約がある。

- (10) 玉の緒<sup>18)</sup>よ 絶えなば絶えねながらへば 忍ぶることの弱りもぞする  
 (式子内親王『新古今和歌集』)

17) 人間関係において上下を分ける線のこと。

18) 「玉の緒」は「命」の意味。

(11) 海よ おまえが泣いている夜は遠い故郷の歌を歌おう<sup>19)</sup>

このように、助詞「よ」は現代では専ら書き言葉でしか用いられず、対面コミュニケーションにおいては用いられない。呼びかけの助詞には語種、文体、使用場面の制約があることから、本稿はこのような呼びかけについては扱わず、別稿に譲る。

### 3. 呼びかけ語をめぐって

呼びかけ語と聞くと、多くの人は「おい」や「ねえ」を想像するだろう<sup>20)</sup>。「ねえ、お父さん、ごみ出してきてよ」における「お父さん」という呼びかけ語を検討する際には、「ねえ」や「おい」などの注意喚起専用の表現との関連も整理する必要がある。本節では、まず、呼びかけ語と注意喚起専用の表現について、品詞的および構文的位置づけを概観する。次に、行為の観点から呼びかけ語を分析する研究を概観する。最後に、過去の先行研究で指摘されている呼びかけ語の種類を分類する。

#### 3.1. 呼びかけに用いられる諸表現の品詞的、構文的位置づけ

品詞的観点から見ると、呼びかけに用いられる「お父さん」「先生」などの語は名詞であり、「ねえ」や「おい」などの注意喚起専用の表現は感動詞に分類される。国語学および日本語学では、過去に少なくない品詞分類が試みられているが、感動詞は「構文上は他の文の部分と結びつかず、「アア」のような感動や「ハイ」「イエ」といった応答・「オイ」のような呼び掛けを表わす品詞」(中崎・城田2017:70)、「自立語で活用がなく、文の独立語となることができる。他の語を修飾しない。概念内容を持たず、感嘆などの感情が非分析的に表出されたもの」(ウォン2012:53)と定義される。具体的には、感動を表す「おや」、応答を表す「はい」「うん」「いいえ」、挨拶の「おはよう」「こんにちは」やかけ声の「えい」「そら」、そして、呼びかけを表す「おい」「ねえ」「もしもし」などが該当するとされる。また、日本語記述文法研究会(2009:158)は、「間投表現」の下位区分として「呼びかけ」を挙げている。「呼びかけ」は「聞き手の注意を引くときに発する表現で、対話の冒頭に用いるのがふつう」であり、表現としては「おい」

19) 中島みゆき「海よ」<http://www.kasi-time.com/item-18144.html> (検索日:2019.02.03)

20) 小田(2010:189)も参照されたい。



「おーい」「もしもし」「ねえ(ねえ)」「よう」「こら」などが該当するとされる。

構文的観点から見ると、呼びかけの要素は独立語として説明される<sup>21)</sup>。松本(2006)は独立語について次のように述べる。

独立語はひとつの文の内部にあらわれるが、それをのぞいた文との、また、他の文の部分とのかかわりがうすく、遊離的であるうえ、内容面でもコトガラの面をひろげるとはいえず、ハナシテの態度、きもちを表すなど、のべかた(陳述)の面で文のくみたてにくわわっている。独立語になる品詞は、感動詞、陳述副詞、接続詞である。名詞もよびかけの独立語になるが、このばあい、よびかけられたヒトをさしめす点で、コトガラの側面もとりだされている。(同上:267-268)

「おおい、中村君、ちよいとまちたまえ」という文の「おおい」と「中村君」が独立語であると述べた。

また、工藤他(2009)は独立語について次のように述べる。

独立語とは、単独で使われれば、独立語文を形成するもので、述語との結びつきは比較的ゆるやかであり、後に続く語句の先触れの役割を果たすものである。(同上:21)

「洋子さん、あそこに花が咲いているよ。」という例文の「洋子さん」が呼びかけを表す独立語であると述べた。また、独立語文の呼びかけとして、高橋太郎(2005:22)は「田中さん」「ちょっとそこのお兄さん」、南(1993:65)は「オーイ小山君。」「チョットアンタ。」等の表現を挙げている。

呼びかけ語と題目語ハの区別が難しい点も指摘されている。

対称詞の2用法のどちらに分類するのか判断不可能な例が少なくないことも明らかになってきた。たとえば、「田島先生、どんな色が好きですか」(井上2003:25)、「やっぱり、あなた、まだ、あれ分かっていないんだわ」(小林1997:128)のような例である。

(高橋圭子2005:134)

当該名詞句は、ハが省略された形式、つまり、対称詞の言及用法であるのか、対称

21) 独立語、また独立語文としての呼びかけ語を扱った研究として李(2015)がある。

詞の呼びかけ用法なのか判断しがたいことが問題視されている。

この問題は、題目語ハと呼びかけの要素の構造的な近接と関係があると考えられる<sup>22)</sup>。文は階層的な構造を持っているが、文構造をモデルに示した場合、題目語は通常最も左に位置し、さらにその左に位置するのは発話行為に関連する呼びかけである(南1974,1993; 寺村1982; 田窪1987; 長谷川1997)。たとえば南(1993:54)は、左から「呼びかけその他」>陳述副詞(一部)>(主題の)ハという構造順を提示している<sup>23)</sup>。しかし、ハと無助詞、助詞の省略という発話特有の現象について明らかになっていない点が多く、また本稿の課題を大きく超えるため、本稿は、呼びかけ語とハが省略された形式の判断は控えることとする。

### 3.2. 行為の観点からみる呼びかけ語

呼びかけ語は、品詞や構文のレベルに加えて、行為のレベルからも検討されている。発話の場を強く指向する一語文や独立語文を分析した仁田(1997)は、一語文のうち「言語行為の基本たる対話行為の発生・維持に関わるもの。言語の受け手を定立するために呼びかけることで、言語行為の端緒を開いたり、先行発話に対して応じ手としての態度を表明することで、言語行為の維持・促進を行うもの」(同上:2、傍点引用者)を言語行為保持型と分類した。そのうち、「回りにいる存在から言語行為の対手を定立する(特定者を指定する)」、「存在確認(出欠の確認)」に用いられている表現として次のような例を挙げた。

- (12) a. 両津勘吉!  
 b. あ、あなた!  
 c. …おまえね。クリーニングに出さない服の、一体全体どこにクリーニングの札がつく可能性があるの。(同上:13)

(12)は、「言語の受け手を定立する」ために相手を呼んでおり、対称詞の呼びかけ用法にあたる。また、「言語行為の発生を計る。発信者と受信者を作り出し、言語行為の場を開く」ための一語文として「よう…」「おい、金次郎。」「やあ、山村さん。」「ねえ、裕作ちゃん。」「もしもし」を挙げ、「呼びかけ詞」と呼んだ(同上:12)。

22) 呼びかけ語とハの省略や無助詞に関する先行研究、また呼びかけ語と題目語ハの機能的な近接関係については、東出(2017)を参照されたい。

23) モデルの全体像は紙幅の都合上割愛する。

呼びかけを行為として捉えるとき、それは年齢的に最も初期に行われる行為の1つといえる。乳幼児が言語獲得初期において発する理解語の1つには「母親」を表す語が含まれる(小林・永田2012、小椋2007)。他者(通常、母親)を求め、コミュニケーションをとるためには、呼ばなければならない。また、コミュニケーション自体においても最初に行われる行為である。仁田(1997)のいうように、コミュニケーションを始める際には、大抵、相手となる人物を呼ぶ必要がある。1節でみた新聞の投書欄の例は、まさに、対話の場を成立させるための行為としての呼びかけ語について指摘している。呼びかけは言語行為として重要であると言える。

### 3.3. 語種の観点からみる呼びかけ語

ここでは、呼びかけ語に該当する表現を列挙した3つの研究を挙げる(表2)。呼びかけ語の種類として共通するのは、固有名詞、親族名称、職業名詞、地位名詞、対称人称詞である。

<表2> 呼びかけ語の意味分類

今村(1996)	① 代名詞「あなた」「きみ」「おまえ」 ② 動詞「おいで」「こい」「いらっしゃい」 ③ 名詞 a) 個人名 b) 親族用語名 c) 敬称(「さん」「さま」「くん」「ちゃん」) d) 称号 e) 職業名 f) 愛称 g) 人間関係を表す呼び方(「お隣さん」「先輩」)
日向(1983)	a) 人称代名詞 b) 名前 c) 親族呼称 d) 地位名称 e) 職業名称 など
田窪 (1997)	a) 固有名詞「次郎」「次郎ちゃん」「田中君」 b) 親族名称「お父さん」「お兄さん」 c) 職階を表す語「課長」 d) 人称名詞「あなた」「君」「おまえ」 e) 臨時的記述「その黄色の帽子の人」

田窪（1997）が指摘する臨時的記述による呼びかけ語は注目に値する。我々は日常で相手を何と呼ぶべきかわからないときがしばしばあるが、そのような際に聞き手の外見や特徴を臨時的に描写するというのは、話し手が聞き手を同定する方法の1つである。

なお、今村(1996)は、Braun(1988:7-11)による英語のForms of Addressの定義にしたがい、同じ基準で日本語の例を挙げているが、呼びかけ語に動詞を含めることには首肯しかねる。対称詞のみならず、人称に用いられる名詞全般に関して、さらに詳細な記述と分析という課題が残されている(金水1986;田窪1997)。

## 4. 発話の観点からみる呼びかけ語

前節までは、品詞、構文、行為、語種という観点からの呼びかけ語に関する研究を概観した。しかし、呼びかけは我々の日常生活において極めて基本的な言語行為であるがゆえに、日常会話には非常に興味深い呼びかけ語の現象が観察され、それは品詞や構文、行為とは異なるレベルによる記述・分析が必要だと思われる。

### 4.1. 発話にみられる呼びかけ語

発話にみられる興味深い呼びかけ語の現象として、以下では、方言談話の呼びかけ語と、小説や映画、ドラマの呼びかけ語を挙げる。

まず、方言談話には、話し相手を純粹に「呼んでいる」とは思えない呼びかけ語の用法がある。この用法は、間投表現(神部2003)やファイラー的な用法(苗田2013;松田2015;東出2016,2017;杉浦2017)と呼ばれている。特徴として、老人の談話に多く観察されること、また、聞き手に対する発話態度や心的態度の表明というモダリティの働きをしていることが指摘されている。

(13) A:そら、歴史が違うからね、そらし方のないことや

B:うん

A:ねえ、他人やねんから、なんちゅうても

B:長い人生ね

A:うん、うん、それがあんだ、きょうはまたあんだ、連れて行ってもろてあんだ、加藤トキ、もうそんな遠い存在の人やおもてたけど、あんなええ

B:結構よかったねえ

A:よかったわあ (林・水口・小川2005:264、太字原文ママ)

(14) m:ホオレンソガ アンター コトシャ ヤスージカラナー、ソレガ アンタ イチバン  
モー コマッتونノジャワーン。

(ほうれん草があなた今年は安くて、それがあなた一番もう困っているのだよ)

f:タイヘンナ アンタ ダゲキジャーワンナー。(大変なあなた打撃だねえ)

(松田・日高1996:414-415)

林・水口・小川(2005)は項構造の観点から呼びかけ語を分析し、(13)のような呼びかけ語について、「文」レベルでなく「発話」レベルで出現する項であることを主張している。(13)(14)の呼びかけ語を構文上に位置付けることは困難で、発話という単位で捉える必要があることは明らかである。

次に、小説や映画、ドラマといった自然会話を模したフィクションの話し言葉には、強調的な呼びかけ語の用法がある。対称名詞と対称人称詞が2つ連続するこの用法は重ね用法と呼ばれ、現実と話し手の想定との間のずれを示している(東出2016,2017)。この用法は、自然会話で用いられることもあるが、主にフィクションの媒体で見られる(東出2018)。

(15) a.田沢、お前、本気で読者を泣かせたくて泣かせを書いたことがあるか

(横山秀夫『クライマーズ・ハイ』)

b.千代さんあなた、気いふれたのか? (李相日・羽原大介「フラガール」)

c.ピエロですって。沙織さん、あなた、これなあに?こんなもん持ってきていいの?

(山本茂男『仮面』)

これらの呼びかけ語は、対称名詞か対称人称詞のどちらか1つからなる呼びかけ語と、構文上は範列関係にあるが、語用論上の効果は異なる。

## 4.2. 呼びかけ語の定義の提案

話し言葉の呼びかけ語には、機能の点で多様性がある。3節で挙げた(12)のように、よそを向いている話し相手や複数から特定の1人の注意を喚起し、聞き手として同定するための呼びかけ語と、(13)~(15)のように、すでに聞き手として同定されている話し相手の注意を改めて喚起するための呼びかけ語は、呼びかけの度合い<sup>24)</sup>が異なる(林・水口・小川

2005)。

3節、4節でみた呼びかけ語の現象を包括的に捉えるためには、発話のレベルから分析する必要があると考えられる。Sonnenhauser & Noel(2013)は様々な言語の呼びかけ語(Vocative)研究を概観し、この対象を研究する上での複雑さについて次のように述べている。

(…) the complexity of the issues involved in vocative studies is directly linked to the central concepts of ‘language system’ vs. ‘performance’.  
 (…) Being recognizable only online, i.e. in the actual context of language production, vocatives challenge the separate treatment of language as a system and language as performance. Vocatives belong to a type of category which cannot be defined cross-linguistically in terms of paradigms (unlike, e.g., verbs or accusative objects), but which are syntagmatic in nature.

(同上:16)

呼びかけ語は、言語体系と言語運用という2つの概念の中間に位置する研究対象である。品詞、構文といった言語体系のレベルに加えて、実際の発話という言語運用の観点からも分析すべき対象であると述べられている。本稿はこの考え方に賛同する。

まず、2節、3節で行った呼びかけ語の先行研究を踏まえて、呼びかけという行為を次のように分類することを提案する。

#### (16) 呼びかけ

##### ①言語表現

- a. 注意喚起表現: 「ねえ・ねえねえ」「あの一」「もしもし」  
 「すみません」「おい」「よお」
- b. 呼びかけ語: 「田中(さん)」「ちかこ(ちゃん)」  
 「お父さん」「おばあちゃん」  
 「(田中)先生」「運転手さん」「看護婦さん」  
 「社長」「係長」「おまえ」「あんた」  
 「パソコンに詳しい人」「どなたかご存じの方」

24) 東出(2017)は、呼びかけ語によって表出される、聞き手に対する話し手の意識を「対聞き手指向性」と呼び、強弱の違いがあると説明している。

「そちらのピンクのスカートのお客様」など

②非言語表現: 肩をたたく、手で招く、ドアをノックするなど

呼びかけを行為として捉えると、言語/非言語表現に大別できる。言語表現は、注意喚起専用の表現(16a)と、聞き手を同定するための具体的な表現としての呼びかけ語(句)(16b)に下位区分できる。通常、呼びかけ語に該当する語として固有名詞、親族名詞、職業名詞、階級名詞、そして対称人称詞が指摘されてきた。これらの語に加えて、本稿は、田窪(1997)の指摘した臨時的記述を拡大し、ソ系指示詞を伴う句と「だれか」などの不定の名詞句も含めることとする。

次に、日本語の呼びかけ語<sup>25)</sup>について、語の指示と形式の基準から、以下の定義を提案する。

**呼びかけ語:** 話し手が聞き手を同定している語で、助詞を伴っていないもの。

この定義は、いまだ解決されていない問題点を保留にしたうえでの、暫定的な定義である。文の構成成分である題目語ハや無助詞に関する研究は現在も盛んに行われているが、残された問題は多い。また、「呼ぶ」という機能的観点からの定義は注意喚起専用表現も含みうるため、本稿は語の指示と形式という基準を採用した。呼びかけ語の分析を進めるにあたっては、このような定義を暫定的に設定することは現実的だと考える。

## 5. おわりに

本稿は、呼びかけ語の定義を提案したものである。そのために、まず、呼びかけ語とその周辺的概念を議論する際に用いられてきた用語を整理した。次に、異なるレベルでなされてきた呼びかけ語の研究を概観したうえで、発話の観点からの分析の必要性を指摘した。そのうえで、語の指示と形式という基準で呼びかけ語の定義を提案した。用語の混乱はこの研究分野がいまだ発展途上であることを示しており、本稿が行った概観の学術的貢献は大きいと考える。

25) なお、修飾語を伴う句も、便宜上、表記はすべて「呼びかけ語」に統一する。

今後は、呼びかけのイントネーションという音調的な分析や、呼びかけ語と無助詞、ハとの意味機能の違いに関する分析を行い、定義の妥当性を検証していく必要があるだろう。また、どのような名詞が対称詞、さらに呼びかけ語となりえるのかという、該当する名詞の意味論的な分析も今後の課題とする。

## 【参考文献】

- 井上逸兵(2003)「コンテキスト化の資源としての呼称一言語とコミュニケーションの生態学への試論―『社会言語科学』6(1)、社会言語科学会、pp.19-28.
- 今村洋美(1996)「呼びかけ表現」田中春美・田中幸子(編)『社会言語学への招待: 社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房、pp.113-124.
- ウォンティベグリエン(2012)「若年層の言葉における感動詞の品詞転成について」『東アジア研究』10、山口大学大学院東アジア研究科、pp.53-65.
- 内間直仁(1981)「日本語の代名詞の体系:自他の二極関係構造」『琉球の方言』6、法政大学沖縄文化研究所、pp.125-160.
- 小椋たみ子(2007)「日本の子どもの初期の語彙発達」『言語研究』132、日本言語学会、pp.29-53.
- 小田希望(2010)『英語の呼びかけ語』大阪教育図書
- 神部宏泰(2003)「近畿西部方言の間投表現法」『ノートルダム清心女子大学紀要 日本語・日本文学編』27(1)、ノートルダム清心女子大学、pp.1-11.
- 金水敏(1986)「名詞の指示について」『築島裕博士還暦記念国語学論集』明治書院、pp.467-490.
- 工藤浩・小林賢次・真田信治・鈴木泰・田中穂積・土岐哲・仁田義雄・畠弘巳・林史典・村木新次郎・山梨正明(2009)『日本語要説 改訂版』ひつじ書房
- 国広哲弥(1990)「『呼称』の諸問題」『日本語学』9(9)、明治書院、pp.4-7.
- 小林哲生・永田昌明(2012)「日本語学習児の初期語彙発達」『情報処理』53(3)、情報処理学会、pp.229-235.
- 小林美恵子(1997)「自称・対称詞は中性化するか」現代日本語研究会(編)『女性のことば・職場編』ひつじ書房、pp.113-137.
- 杉浦滋子(2017)「『全国方言談話データベース日本のふるさとことば集成』にみる日本語諸方言のフイラー」『言語と文明: 論集』15、麗沢大学大学院言語教育研究科、pp.1-20.
- 鈴木孝夫(1967)「トルコ語の親族用語に関する二、三の覚え書」『言語研究』51、日本言語学会、pp.1-15.
- 鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』岩波新書
- 高橋圭子(2005)「対称詞研究のダイナミズム—ポライトネスおよび指標性の観点から—」『言語情報科学』3、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻科、pp.129-143.
- 高橋太郎(2005)『日本語の文法』ひつじ書房
- 田窪行則(1987)「統語構造と文脈情報」『日本語学』6(5)、明治書院、pp.37-47.
- 田窪行則(1997)「日本語の人称表現」田窪行則(編)『視点と言語行動』くろしお出版、pp.13-44.
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第I巻』くろしお出版
- 苗田敏美(2013)「富山方言談話における『アンタ』の機能: 自然談話における使用実態より」『日本



- 語教育論集』22、姫路独協大学大学院、pp.17-24.
- 中崎崇・城田俊(2017)「日本語における語の認定と品詞分類をめぐる一日本語教師のための日本語文法をもとめて」『就実論叢』46、就実大学・就実短期大学、pp.63-76.
- 永田高志(2015)『対称詞体系の歴史的研究』和泉書院
- 仁田義雄(1997)「未展開文をめぐる」川端善明・仁田義雄(編)『日本語文法 体系と方法』ひつじ書房、pp.1-24.
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法7 談話・待遇表現』くろしお出版
- 長谷川信子(1997)「日本語の構造—情報単位としての文—④発話行為と談話(2)」26(4)『月刊言語』大修館書店、pp.100-105.
- 林博司・水口志乃扶・小川暁夫(2005)「項の「文的」解釈と「発話的」解釈—呼びかけ詞の対称言語学的考察」串田秀也・定延利之・伝康晴(編)『活動としての文と発話』ひつじ書房、pp.253-288.
- 東出朋・松村瑞子(2016)「呼びかけ語の二人称対称人称詞—談話における特殊な機能—」『言語文化論究』37、九州大学言語文化研究院、pp.37-50.  
(DOI:<https://doi.org/10.15017/1784833>)
- 東出朋(2017)「呼びかけ語と対聞き手指向性」『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』第4巻、第1・2号、No.4.
- \_\_\_\_\_ (2018)「呼びかけの重ね用法出現の要因—フィクションの話し言葉という可能性—」『社会言語科学会 第42回大会発表論文集』pp.113-116.
- 日向茂男(1983)「呼びかけ」水谷修(編)『講座日本語の表現 話し言葉の表現』3、筑摩書房、pp.54-66.
- 松田正義・日高貢一郎(1996)『方言生活30年の変容 下巻』明治書院
- 松田美香(2015)「大分と首都圏の依頼談話: 大分方言の『アンタ』『オマエ』のフィラー的使用について」『別府大学紀要』56、別府大学、pp.11-22.
- 松本泰丈(2006)『連語論と統語論』至文堂
- 南不二夫(1974)『日本語の構造』大修館書店
- 南不二夫(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 明治書院 [編](1990)『日本語学』9(9)、明治書院
- 明治書院 [編](1998)『日本語学』17(9)、明治書院
- 李紫娟(2015)「呼びかけの言語行為についての研究」博士論文、岡山大学大学院
- 渡辺友左(1970)『国立国語研究所報告35 社会構造と言語の関係についての基礎的研究2 マキ・マケと親族呼称』秀英出版
- Braun, Friederike (1988) *Terms of address: problems of patterns and usage in various languages and cultures*, Mouton de Gruyter
- Sonnenhauser, B., Aziz Hanna P.N. (2013) Introduction: Vocatives!// Sonnenhauser, B., Aziz Hanna P.N. (eds) *Vocatives! Addressing between System and Performance*, Berlin, Mouton De Gruyter, pp.1-24.

## 辞典

- 田中春美[ほか](1988)『現代言語学辞典』成美堂
- Peter Hugoe Matthews(著), 中島平三・瀬田幸人[監訳](2009)『オックスフォード言語学辞典』朝倉書店

**引用作品**

竹田伸一 『聖書によるキリスト教研究』

三好達治 『乳母車』

横山秀夫 『クライマーズ・ハイ』

李相日・羽原大介 「フラガール」

山本茂男 『仮面』

『新古今和歌集』

<https://kotobank.jp/word/%E8%A6%AA%E6%97%8F%E5%90%8D%E7%A7%B0-82166>

(検索日:2019.02.02.)

<http://www.saga-s.co.jp/news/national/10201/436757>(検索日:2019.02.03)

<https://mainichi.jp/articles/20170701/ddl/k06/010/081000c>(検索日:2019.02.03)

[http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s12\\_1937\\_02.html](http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s12_1937_02.html) (検索日:2019.02.03.)

中島みゆき 「海よ」 <http://www.kasi-time.com/item-18144.html> (検索日:2019.02.03.)

[https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q13191593358](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13191593358)(検索日:2019.02.15)

논문 투고 일자 : 2019. 05. 24.
--------------------------

논문 심사 일자 : 2019. 08. 02.
--------------------------

게재 확정 일자 : 2019. 08. 05.
--------------------------

---

 <要旨>
 

---

## 呼びかけ語をめぐる諸問題の検討と定義の提案

東出朋

本稿の目的は、日本語の呼びかけ語をめぐる問題を整理したうえで、呼びかけ語の定義を提案することである。まず、呼びかけ語の議論にみられる用語について、「あなた」「おまえ」などの語を「代名詞」と名付けることは形態的、機能的、意味的、語彙的な観点から不適切であるという意見を示し、「呼称」「呼びかけ語」「対称詞」という類似する用語を整理した。次に、過去の呼びかけ語研究を品詞、構文、行為の観点に分けて概観した。呼びかけには「お父さん」「先生」などの名詞が用いられ、構文的には独立語として扱われ、行為の観点からは相手との対話の場の発生や維持を行うものとされる。しかし、話し言葉に見られる多様な呼びかけ語の現象を説明するためには発話の観点からの分析が必要である。そこで、日本語の呼びかけ語を、語の指示対象と形式の観点から、話し手が聞き手を同定している語で助詞を伴っていないものという定義を提案した。

 Reconsidering the Vocative in Japanese  
 -Toward a New Definition-

Higashide, Tomo

This paper proposes a definition of the Japanese vocative. First, we consider the position that referring to words like *anata*, *omae*, and *watashi* as pronouns is inappropriate morphologically, functionally, semantically and lexicologically. We then discuss the similarities of terms such as *koshō* 'name', *yobikakego* 'vocative', and *taishōshi* 'address term'. Finally, we reanalyze former studies from the perspective of a part of speech, sentence structure and speech act. The expressions for addressing a person, such as *otōsan* and *sensei*, are categorized as nouns, structurally as freestanding words. Their use as a speech act is considered to initiate and maintain the discourse with the hearer. In order to explain certain interesting phenomena that occur in conversation, we analyze them at the level of discourse. Thus we propose a definition of the vocative in Japanese as an element without particles through which the speaker indicates the hearer.